

受け継がれる 「Z旗」に込めた想い



「Z旗」と呼ばれる青・赤・黒・黄の四色の旗。本来、海上で船同士が通信するために使う国際信号旗としては、「私は引き船が欲しい」という意味を示します。

しかし日本海海戦において、東郷平八郎はこの旗に別の意を込めました。ロシアのバルチック艦隊が対馬沖に現れた明治三十八年（一九〇五）五月二十七日午後一時五十五分、旗艦「三笠」にZ旗が掲げられます。その意味は、「皇国の興廃、此の一戦にあり。各員一層奮励努力せよ」というものでした。

東郷がこの大事な戦いを前に信号旗を掲げたのは、彼のイギリスへの留学経験が関係しています。ちょうど百年前、ネルソン提督はトラファルガーの海戦の際、「英国は各員がその義務を果たすことを期待する」というメッセージを旗で伝えることで士気を鼓舞し、勝利しました。東郷はこれにあやかうとしたのです。

それではなぜ、数ある信号旗のなかで、「Z」を選んだのか。

一説には、Zがアルファベットの最後である

ことから、「これが最後の戦い」という強い想いが込められていたといわれています。

Z旗はこれ以降、太平洋戦争時のマリアナ沖海戦、レイテ沖海戦など、重要な戦いのときに掲げられるようになりました。

さらに戦後は、民間の企業にまで広がります。日産自動車の「フェアレディZ」も、その開発チームにアメリカ日産の社長がZ旗を贈ったことから、その名が付けられたといわれています。Z旗は「ここの一番の大勝負」のときに使われるようになり、「Z旗を掲げる」という慣用語にもなりました。Z旗に東郷平八郎が込めた想いは、今も生きているのです。



Z旗が掲げられた記念艦三笠

三笠だより

記念艦三笠に掲揚されているZ旗、そのちよつとマニテックな知識をご紹介します。

年に一度だけZ旗は右舷に

日本海海戦で連合艦隊旗艦三笠に掲げられたZ旗。現在、記念艦三笠の左舷にZ旗を見ることができます。

軍艦の信号旗は通常、艦の右舷に掲げられ、右舷がいっぱいになったら左舷に、と順番が決まっています。そのため本当なら、Z旗は右舷にあるのが正しいのですが、三笠公園側からよく見えるように、左舷に掲げているのです。

しかし年に一度、五月二十七日の日本海海戦記念日だけは、日本海海戦の時と同様に右舷に掲げられます。いつもとは違う、本来の三笠の姿が楽しめる貴重な機会かもしれません。



今月のおすすめ商品

横120センチ、縦105センチ、大判のZ旗。9800円（税込）

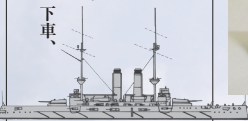
今月の読者特典

『歴史街道』二〇一九年七月号を三笠売店で見せると、先着10名様にZ旗ピンバッジをプレゼント！



記念艦三笠

観覧料金
大人 600円
65歳以上 500円
高校生 300円
小中学生 無料
京急横須賀中央駅もしくはJR横須賀駅より三笠循環バスで三笠公園二下車、徒歩1分



TEL : 046 (822) 5225
http://www.kinenkan-mikasa.or.jp/
神奈川県横須賀市稲岡町 82-19